

AI／DXの時代における学習資源としての文献の探索 および利用に関する基礎的研究（研究プロジェクト成果報告）

Fundamental study on seeking and using literature in the AI/DX era

野末 俊比古／庭井 史絵
Toshihiko NOZUE／Fumie NIWAI

1. はじめに

青山学院大学教育人間科学部附置教育人間科学研究所における2023年度研究プロジェクト「AI／DXの時代における学習資源としての文献の探索および利用に関する基礎的研究」について報告する。ただし、研究成果の主たる部分である質問紙調査の結果に関しては、別途、口答および論文において発表予定であるため、ここではプロジェクトにおける研究の経過・結果について概要のみを記述する。

2. 研究の背景と目的

教育（学習）におけるAIの活用に注目が集まっている。教育におけるAIの活用をめぐるのは多岐にわたる話題・論点が存在するが、本研究では学習者が用いる文献に着目する。すなわち、AIを活用した学習資源としての文献をめぐる探索・利用モデルの構築をめざす。引いては、AIを活用した教育において整備すべき学習資源（文献）と提供システムの在り方について、図書館を対象として考察していく。

なお、本研究における文献は、電子書籍を含め、主として図書館で利用できるものを想定する。図書館を“学びの場”ととらえ、文献の探索・利用を学習（行動）の一環ととらえている。館種は限定しない。

3. 研究の方法と結果 一文献探索の実態（質問紙調査）一

上記の目的に向けて、とりわけAIの活用によって学習（行動）における文献の探索・利用がどのように変わるのかといった点の把握・検討に向けて、学習者が文献をどのように探索・利用しているかに関する実態をめぐるデータが必要である。本研究で設定している観点からのデータはほとんど見当たらなかったが、本プロジェクト代表者（野末）がリーダーを務めている本学革新技術と社会共創研究所「近未来の図書館と新しい学び」研究プロジェクトにおいて実施した質問紙調査が趣旨に適う¹⁾。

同調査は、とくに学習などの目的に限定せず、「本を探したり選んだりすること」について、その方法と課題を把握しようとしたものである。そこで、本研究においては、「本を探したり選んだりする」方法・手段や課題は目的によって異なるのかを確認するため、目的別に尋ねることとした。すなわち、「仕事や勉強で使う本」と「趣味や娯楽で読む本」に分けて、どのように探したり選んだりしているか、その際に困っていることはあるかについて選択肢式で問うこととした²⁾。また、同調査では対象者の職業はとくに限定していなかったところ、本研究では「就業者」「主婦（夫）」「学生」という区分を設定することとした。

調査は、2024年3月にインターネットによって実施した。対象者は「就業者」「主婦（夫）」「学生」それぞれ100名である。

冒頭に述べたとおり、調査結果は別途、発表する予定であるため、ここで詳述することは適切ではない。よって、極めておおまかに結果の一部のみを記す。

まず、「仕事・勉強」と「趣味・娯楽」では、文献を探索する方法・手段には違いが見られる。例えば、図書館の端末などで検索する割合は、後者より前者の場合に高まる。逆に、図書館などで目についたものから選ぶ割合は、前者より後者の場合に高まる。探索にあたって「困っていること」にもやや違いが見られる。また、職業で比較してみると、文献探索の方法・手段および「困っていること」については、「仕事・勉強」と「趣味・娯楽」のいずれにおいても、「就業者」「主婦（夫）」「学生」それぞれで傾向が異なる。

以上のことから、文献の探索については、目的（今回は「仕事・勉強」か「趣味・娯楽」か）と属性（「職業」）によって特徴があることが推測・示唆される。読書や図書館利用の頻度なども含めた分析によっても違いがあるため、かかる要素も考慮に入れた文献の探索をめぐる傾向を整理することができる。

なお、本研究の計画時には、数量的データだけでは把握しきれない点について、面接調査を実施し、質的データを収集する予定であったが、数量的データの整理・分析に時間を要したことなどから、見送ることとした。今回の質問紙調査については、本学革新技術と社会共創研究所「近未来の図書館と新しい学び」研究プロジェクトの協力を得ている³⁾。

4. おわりに

本研究においては、学習資源としての文献の探索について一定の知見を得ることができた。一方、文献の利用に係る側面まで十分に検討できなかった。また、文献の探索（や利用）にAIを導入した場合の調査・考察にもほとんど到達できなかった。今後の課題としたい。目的に掲げたモデルの構築に向けて研究をさらに進展させていく決意を記してむすびにかえたい。

注・引用文献

- ¹⁾ 野末俊比古，鈴木祐介，越前谷直之，竹内祐喜「私たちは本をどのように探したり選んだりしているか：テクノロジー（AI）の活用による学習者に最適化した文献探索システムの構築に向けたニーズの分析（質問紙調査）」『大学教育学会第45回大会発表要旨集録』2023.6, p.254-5
- ²⁾ 幅広い職業・世代を対象とした調査であるため、「学習」は「勉強」と置き換えること，また，学習と仕事とは文献の探索に類似の傾向があると想定されるため，「勉強」と「仕事」をまとめて尋ねることとした。
- ³⁾ 同プロジェクトにおいては富士通Japanとの共同研究を展開しており，今回の調査についても同社メンバーの協力を得ている。なお，共同研究では，AIを活用した文献探索システムの開発を進め，社会実装に至っている。野末俊比古，越前谷直之，鈴木祐介，正司和寛，竹内祐喜，本田政爾，小島梨紗，前彩佳「AIの活用による学習者に最適化した文献探索システムの社会実装：『近未来の図書館と新しい学び』研究プロジェクトの成果と展望」『日本教育情報学会第40回年会論文集』2024.8, p.122-5